



①コロンボ日本人学校 (スリランカ)

海外赴任先での子どもの教育は駐在員にとって最大の関心事の1つ。シリーズ「世界の日本人学校」の第1回目は、スリランカ最大の都市コロンボにあるコロンボ日本人学校を紹介する。

交流の架け橋となる人材を育成



コロンボ日本人学校
しばた やすたか
 前校長 **柴田恭孝**

創立 50 周年を迎え新たな歩み

昭和 39 (1964) 年 6 月の日本人会理事会において日本人学校設立に関する案件が審議された。同年 10 月には正式発足のための詳細が決定され、昭和 41 (1966) 年 4 月に日本人学校設立のための国家予算が認められた。9 月 2 日、在スリランカ日本人会の悲願であった日本人学校が児童 4 人で開校するに至った。奇しくも平成 28 (2016) 年に創立 50 周年を迎え、新たな歩みを始めたばかりである。一口に 50 年といっても、多くの出来事が沿革史には記録されている。特筆すべきは校舎移転を何度か繰り返し、平成 14 (2002) 年 4 月 1 日に念願の自前の校舎を建設、現在に至っていることである。校舎建設では地元企業の方々を中心となって資金を集め、何度も外務省や文部科学省と協議を重ねるなど、たいへんな苦労をされたと聞いている。

現在は 2 台のスクールバスを使い、16 人の児童生徒が元気に通学している。図書室やコンピュータ室、音楽室等も整い、文科省の面接を受けた 6 人の教員が全国各地から集まり日本国内と同様の教育を行っている。

「スリランカが大好きな子」育てる

本校では「自ら考え、心身ともにたくましく、国際社会で活躍できる子どもの育成」を教育目標に掲げ、日々実践をしている。スリランカの歴史

や文化、生活習慣等の理解を深めるとともに、日本との関わり合いを調べる中で両国の交流の架け橋となる人材を育成することに重点を置いている。

スリランカの第 2 代大統領であるジャヤワルダナ資料館訪問は、スリランカを知ることで日本を学ぶきっかけになった。サンフランシスコ講和会議での彼の「憎悪は憎悪によって止むことはなく愛によって止む」(Hatred ceases not by hatred, but by love) というスピーチは大きく会議の流れを変えることとなった。その結果、対日賠償請求権が放棄され、日本がジャヤワルダナ氏によって救われたことを知り、日本の歴史をもっと調べてみようという気持ちになった児童生徒がいる。

コロンボ日本人学校はスリランカについてもっと深くかかわろうということで、めざす子ども像に「スリランカが大好きな子」を付け加えた。現地校との交流はもちろんのこと、宿泊学習での現地校との交流、校外学習など様々な経験を通してスリランカを知り、日本を知ること努力している。



JSC (コロンボ日本人学校) フェスティバルで伝統舞踊・キャンディアンダンスを披露